

話 題

核データニュースの編集について

ほゞ1年の間、核データニュースの発行を休んでしまい、ご迷惑をかけました。先にこの誌上でも述べたことがありましたが、シグマ研究委員会の中でも、核データニュースの編集・発行上の問題について多々議論されてきました。とくに、核データの有効利用の観点からは広報活動を一層強化することが指摘され、現在の「核データニュース」誌をこれに沿って実充させることが期待されていきました。

昨年、シグマ特別専門委員会でもこの問題が採り挙げられ、運営委員会でも何回か議論されました。その結果、昨年9月に運営委員会の中に「核データニュース検討小委員会」が設置されました。小委員会では、核データに関する広報活動の観点から「核データニュース」誌のあるべき姿を検討するとともに、現状のマンパワーで同誌の編集・発行を維持できる体制を審議しました。その結論はシグマ研究委員会委員長に答申されました。以下に資料として、その全文を掲載します。

答申の詳しい内容は、答申書の原文を見ていただくことにして、ごく簡単に要約すると次の3点になります。

- (1) 核データニュースの編集のために、編集委員会を設ける。
- (2) 発行は従来年4回から年3回にし、発行時期は1月、5月、9月とする。そして発行時期は厳守する。
- (3) シグマ研究委員会内の情報交換のための役割も重視する。

この答申は、運営委員会においてほゞ原案通りに受理され、昨年12月から編集委員会が発足する運びとなりました。編集委員会はすでに活動を開始し、新しい体制での発行を本年5月から行うこととして準備を進めております。したがって、本号がそれまでの最後の号となります。

編集委員および編集方針などについては、次号で詳しく見ていただくとして、ここでは、次に掲げる答申書の全文から推測していただくことにします。

昭和59年10月19日

シグマ研究委員会委員長
原田 吉之助 殿

核データニュース検討小委員会

浅見 哲夫
喜多尾憲助
中川 庸雄
中嶋 龍三
吉田 正

「核データニュース」に関する答申

核データニュース検討小委員会は、運営委員会からの要請にもとずき、昭和59年9月10日と10月11日の2日にわたって会合を開き、核データの利用を促進させる観点から核データニュース誌の編集・発行に関する改善案を検討しましたので、別紙のように答申致します。また、討議の概要を示すために議事録も添付致します。

核データニュースの編集・発行についての答申

核データニュースは、これまでも核データ活動のPR、核データ利用の促進のために大いに貢献してきたが、最近、定期発行が困難な状況になっていることは誠に残念なことである。核データの利用分野が年々拡大し、核データに対する要求も広範にわたるに到つた現状をかんがみるに、核データニュースの果たす役割はますます重要となつていけると言える。この期に当り、シグマ研究委員会内からの協力をえて、編集のスタッフを強化するとともに核データニュースの発行をより有効なものにすることが望まれる。

核データニュースは当初はJNDCニュースとして発足したが、その後、シグマ研究委員会外へも核データ活動を広くPRする必要性から現在の名称に変更され、内容も核データの研究者・利用者一般を意識するようになってきた。しかしながら、その反面、最近では、シグマ研究委員会内の情報交換としての役割が希薄になつていこともいなめない。

これらのことを勘案して、核データニュースの編集・発行に当つて次の諸点を考慮されるよう希望する。

1. 編集のため新たに編集委員会を設けることを提案する。編集委員会は、核データセンターから2名(事務局委員)およびそれ以外の3～4名をもって編成する。事務局委員以外の委員はその機関および所属専門部会を考慮して選出し、任期は2年として、半数ずつ交替するものとする。留任は原則として避ける。
2. 発行は年3回が適当である(従来は年4回)。発行時期は原子力学会・核データ研究会・原子力総合シンポジウムの時期等を考慮して1月、5月、9月とする。定期編集委員会は年3回、発行直後に行う。
3. 誌版は従来通りB5版が適当である。
4. シグマ研究委員会内の情報交換・流通に資するため、「シグマ研究委員会」の欄を設け、WG活動の紹介、WG会合の開催・議題等を常時掲載する。
今後は核データニュースでは、巻頭言、入手資料リスト、文献紹介、話題、シグマ研究委員会の活動、掲示板、行事カレンダー、投稿などを扱うものとする。
5. 投稿欄では、技術報告等について、すでに誌面を開放してあるが、この欄をより有効に活用してもらうようPRを強めるなどの努力が必要である。

なお、以上の実施に当つては、運営委員会各氏の積極的な支援がとくに必要である。